「万物の終わりが迫っている」　2026年02月05日

キリストは肉に苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで武装しなさい。苦しみを受けた人は、罪との関りを絶っているのです。それは、もはや人の欲望によってではなく、神の御心によって、肉における残りの生涯を生きるためです。かつてあなたがたは、異邦人の好みに任せて、放蕩、情欲、泥酔、馬鹿騒ぎ、暴飲、律法の禁じる偶像礼拝にふけってきましたが、もうそれで十分です。あなたがたがもはやそのような度を超した乱行に加わらないので、あの者たちは驚き怪しみ、そしるのです。彼らは、生きている者と死んだ者とを裁こうとしておられる方に、申し開きをしなければなりません。死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、肉においては人として裁かれても、霊においては神のように生きるためです。万物の終わりが迫っています。それゆえ、思慮深く振る舞い、身を慎んで、よく祈りなさい。何よりもまず、互いに心から愛し合いなさい。愛は多くの罪を覆うからです。不平を言わずにもてなし合いなさい。あなたがたは、それぞれ賜物を授かっているのですから、神のさまざまな恵みの善い管理者として、その賜物を用いて互いに仕えなさい。語る人は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が崇められるためです。栄光と力とが、世々限りなく神にありますように、アーメン。（Ｉペトロ４：１～11）

著者は、キリストが肉に苦しみをお受けになったのだから、あなたがたも同じように肉の苦しみを受ける心構えで武装しなさいと言う。肉に苦しみを受けた者は、罪との関りを絶ち、神の御心に従って、肉における残りの生涯を生きる者である。迫害に晒され、苦しんでいるあなたがたは、神の御心に添うように、残りの人生を全うしなさい。あなたがたはかつて、異邦人が好む放蕩、情欲、泥酔、馬鹿騒ぎ、暴飲、律法の禁じる偶像礼拝にふけっていたが、不信仰、不品行はもう十分である。かつての仲間たちは、あなたがたが度を越した乱行に加わらなくなったので、驚き怪しみ、そしる。彼らは、生きている者と死んだ者とを裁く神に、申し開きをしなければならない。死んだ者にも福音が告げ知らされたのは、彼らが、人間的見方からすれば、肉において裁かれて死んだようでも、神との関係において、霊において生きるためである。著者は、福音宣教によって、裁かれて死んだ者でも神の霊において救いに与るようになると言う。キリストの十字架と復活の福音は死をもたらすのではなく、命を約束するのである。

著者は、「万物の終わりが迫っています。それゆえ、思慮深く振る舞い、身を慎んで、よく祈りなさい」と、裁きの日が迫っているので、その日に備え、思慮深く、身を慎み、よく祈れと言う。Ｉペトロは、キリスト者は、世の終わりの時を覚え、その時に、与えられる全き救いを待ち望みながら、今、どのように生きるべきかを諭すことを主目的にして書かれている。何よりも、互いに愛し合いなさい、愛は罪を覆うからと勧める。あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているのだから、不平を言わずにもてなし、神の様々な恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕えなさい。語る者は、神の言葉を語るにふさわしく語り、奉仕をする人は、神がお与えになった力に応じて奉仕しなさい。著者は、「すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して、神が崇められるためです。栄光と力とが、世々限りなく神にありますように、アーメン」と祈っている。